ビオトープ プレオープン

面瀬小活動報告 №1（文責谷山）　2019/07/19

■学校・学級・学年だより，HP 等で子どもたちの活動の様子を紹介しておりますが，誌面の制約や発行のタイミングがあってなかなかお伝えできない部分があります。『面瀬小活動報告』として不定期ではありますがお知らせしていきたいと思います。
■まずは，昨年末に着工したビオトープを7/１１にプレオープンしたのでお知らせします。

■プレオープンのために池周辺の調整工事をしていたところ，５年生の生き物が大好きな男の子たちが手伝いに来ました。
　「コオイムシ捕まえてきていいですか？」「ドジョウもいいですか？」「浮き草も入れるといいんじゃないですか」次々と持ってきて放していました。
■もともと，崖下のU字溝には，浸み出てきた湧き水がたまり，ドジョウやトンボのヤゴがすんでいました。好きな子は，休み時間に捕まえたり，教室で飼育したりしていました。ビオトープができるのを楽しみに待っていたのです。

◆子どもたちの「移住作戦」の前にやってきていたのは，アメンボとクロゲンゴロウ。そして，水の中を見ると，U字溝の表面に藻が生え，活発に動き回るプランクトンがたくさんいます。水辺があるだけで多くの生き物が集まってきました。環境を整える大切さを感じました。
◆今後は，低学年の生活科や理科の生物教材との関連，また，面瀬川での生き物調査とのかかわりを深めて積極的に利用していきたいと思います。今後，面瀬川のフィールド調査をした際に，動きのある魚（ウグイの稚魚を考えています）やスジエビ，カワニナなどの貝類を「移住」させてみようと計画しています。また，生物のすみやすい環境づくりを進めるため，水草や池周辺の植栽を検討しています。

面瀬小・学校ビオトープ・アーカイブ

1　旧ビオトープの改修

■崖下の湧き水に注目して宮教大の棟方有宗先生と当時面瀬小にいた故岩槻仁先生がつくった旧ビオトープ。時間の経過とともに土や石が入り，湿地から草地へと変化していました。

■そこで，2018年6月に日本生態系協会に助成金を申請し，9月に決定通知が届いたのでいよいよ改修することにしました。

　土や石を取り除き，敷いてあった防水シートをはがし，湧き水が十分たまることを確認しひと安心しました。

2　プロジェクト委員会を経て

■10月には，ＰＴＡ会長さんと面瀬公民館長さんを加えて第1回面瀬小・学校ビオトープ・プロジェクト委員会を開催しました。

　宮教大の棟方先生の助言も交えて，次のような基本構想で進めることにしました。

〇崖下の湧き水や自然を生かす
〇安全で丈夫なものにする
〇ＰＴＡや地域の方々の協力で進める
〇基本は深さ15～20cm の湿地
〇魚の越冬が可能な60～80の深み

3　PTA協力の下で工事推進

■12月に入り，高橋徹さん（2年紅葉父）に重機で掘削してもらいました。畑予定地の花壇のブロックや栃の木の大きな根もきれいに除去してもらいました。

■ところが，魚の越冬のための深みを掘っていたら，地下からどんどん水が湧いてきました(写真)。ただ土を入れて埋めていくと，底なし沼のようにどろどろに。さらに，非常に寒い冬が長引き，春先まで人力の作業はなかなか進みませんでした。

■2019年４月に入って，U字溝で囲って二つの「深み」を確保し，残りの部分を大きな石等を入れながら埋めていきました。運動会前には，畠山広永さん（5年夢花，3年海翔父）に仕上げ用の砂利と砂を運んできてもらい，作業が少しずつ進みました。

4　専門家の助言の下で

■6月13日（木）4年生の面瀬川上流探検の講師として来校した宮教大の棟方先生に，水を入れたビオトープを見てもらいました。次のようなコメントをいただきました。

「底から浸み出ているようだが，湧き水をしっかり池に入れることで池の深さも十分になる。」
「魚越冬用の深みは十分な深さがある。今後が楽しみ。」
「流入する湧き水のお陰で，温度も上がりすぎないであろう。渓流の魚もいけそう。」

■次回来校する頃には，もっと安定して池らしい立派な池になっていることでしょう。

愛称募集中　名前をつけてね

■面瀬小のビオトープは，南側崖下の空間で次のものを含みます。

〇サッカーゴール裏の畑
〇ドジョウのすむ崖下のU字溝
〇草置き場
〇ミニ水田を含む池

　先日，池を見に来た2年生や，生き物採集の交流学習をしていた1年生と3年生が，池の周辺でバッタ（まだ羽の伸びきらない幼虫）やトンボを捕まえていました。
　草地が広がっているので，水にすむ生き物だけでなく，思っているよりも多くの生き物が住み着いています。

■まだ，プレオープンしたばかりで，正式な名前も決まっていないので，子どもたちから愛称を募集し，選定していきたいと思います。

■また，生息した生き物の調査をするときや簡単な整備作業についても，子どもたちの考えを聞いたり，手伝ってもらったりしながら進めていく予定です。

ミニミニ田んぼ

■生き物のすみかづくりの一環で，3年生の稲の余り苗を植えるミニミニ水田をつくりました。小石がたくさん混ざっているので素足で入るには厳しいですが，稲が生長するにつれ，いろんな生き物が住み着いたり，隠れて休んでいたりするものと思います。

面瀬小学校のビオトープに名前（愛称）をつけてください！

例　〇〇ビオトープ，〇〇ランド，〇〇池　　…などなど

夏休み中は，応募用紙をプールの受付か職員室に届けてください。

■職員間では，プレオープン前にビオトープの池の使わせ方について，下記資料を基に検討しました。浅いは言えども水辺ですし，段差もありますので安全には十分気をつけさせて利用していきたいと思います。

■7月8日(月)に測定したところ，池の温度は２２．８℃でしたが，湧き水は１３．８℃でした。１０℃近く冷たい水でした。安全に楽しく遊んで，様々なことに気づいていってもらいたいです。

面瀬小学校ビオトープの利用について（案）検討資料

1　設置の目的

校庭南側の崖からの湧き水を利用して水棲生物を中心とした生き物や自然に触れることのできる場所を整備し，児童の生物や自然環境への興味関心を高め，調査観察によって生態系や循環等への気づきを促す。

2　利用のガイドライン

(1) 地域の自然を生かす
　・自然繁殖や面瀬川の生き物の飼育等，無理のない形で管理する。
　　（外来種や観賞用の生き物を極力避ける）

(2) 観察を中心とする
　・生物調査等をする場合を除き，捕獲をしない。水の中にも入らない。

(3) 安全な利用を
　・段差や石，コンクリート製のＵ字溝等があるので気をつける。走ったり,追いかけたり，押したりしない。
　・15～20ｃｍ程度の浅い池（湿地）としてつくっているが，中央は60～70ｃｍの深み（魚の越冬用）があるので特に注意する。

(4) 池の保全
　・次第に土手が崩れたり，土砂が流入し池から湿地へと遷移するので，適度な改修を加える。日常においては投石の禁止などを徹底する。

3　教育活動での活用

日常の遊びの場としてはもちろん，生活科や理科，総合的な学習の時間の観察，調査の場としての利用を促進する。必要な観察用具等はESDや河川教育に関する予算等で検討する。

4　運用の開始

令和元年度7月11日からプレ・オープンとする。

周辺の砂利の撤去，植栽による安全配慮等を引き続き行って整備する。

また，ＰＴＡや地域住民との連携をさらに進めていく。